

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

語句選択 33問 記述式 25問 論述式 2問(80字、100字) 計60問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**)

大問数5題は昨年度と同じであったが、小問数は57問から60問に増加した。論述の字数が合計220字から180字に減ったが、負担が軽くなったとはいえ、試験時間の60分は、余裕があるとは言えない。

出題の特徴

例年通り、I・IIが語句選択、IIIが空欄補充の記述、IV・Vが史料を素材とする記述・論述の問題。史料を読みこむ論述問題や、正解となる語句が語群にない場合に「0」と答える形式は文学部特有である。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択	原始・古代の日中関係とヤマト政権	比較的易しい問題が多かったなかで、Iの「敏達」、Lの「軍尼」および「則天武后」を問うNは難。Kの『隋書』はやや難。Q「和同開珎」もやや難だが、慶應義塾大学受験生ならば知っておきたい。	標準
II	語句選択	古代から近代の絹と綿	I「小倉」織は差がついたかもしれない。Jは条約締結の年と開港の年を間違えずに正解したい。Mの大阪紡績会社の設立は厳密には1882年である。他の問題は易しく、ここで点数を稼ぎたい。 ※Mについては、後日、大学より問題に一部不備があったため、全受験者が正解を解答したものとみなして加点すると発表された。	易
III	記述	1990年代の政治	Cの「細川護熙」以外は3人の総理大臣の名前を含め、全て難。特にAの「モザンビーク」、Eの「財政構造改革」法は、受験生を苦しめたであろう。	難
IV	記述 論述	室町将軍と守護大名 《史料》	6本の未見史料を素材とした問題だが、昨年と違い史料の読み取りと設問文を手がかりに解いていく思考型の問題で、時間をかけて解く必要があった。問5「畠山義就」と問6「足利義教」、問7「嘉吉の変」は、やや難。問8「斯波義廉」は難。問9「北条氏綱」も難。北条早雲と迷ったかもしれないが、「その子」の部分から北条氏綱と判断したい。問10も、史料6本を読み込んだ上でこれを踏まえて解答する必要があり、やや難。	難
V	記述 論述	棄捐令《史料》	問3「浅草御蔵」、問7の御触書「天保」集成は難。しかし他の記述式問題は平易な問題が多かったと言える。問9はやや難だが、この問題で得点差がついたと思われる。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書の内容をマスターするとともに、実戦力をつけるために過去問に取り組むことが重要である。それにより、出題の難度を把握するだけでなく、適当な語句がない場合に「0」を選ばせる文学部特有の出題形式に慣れることができる。さらに、IV・Vで出題される論述問題に対しては、日頃から実際に解答を作成する訓練などを積み、苦手意識をなくしておくことも合格の必須条件となるであろう。

